

# 日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年10月2日（水）

活動隊員：酒井明子、作川真悟、花房八智代、朝田和枝、金谷雅代

## 1. 活動期間

2024年9月26日（木）8時30分～17時00分

## 2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

## 3. 珠洲市の被害状況（9月24日14時現在 石川県庁情報 第161報）

人的被害 死者：126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,738棟、半壊：2,052棟、一部損壊：1,753棟 非住家被害：5,899棟

避難所 開設15箇所 避難者数145人

### 低気圧と前線による大雨に伴う災害の被害等の状況 珠洲市（危機管理監室）

（9月26日16時現在 第8報）

[https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/documents/0926\\_1730\\_2\\_kaigisiryoku.pdf](https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/documents/0926_1730_2_kaigisiryoku.pdf)

人的被害 死者：2人 行方不明者：1人 負傷者：重症調査中、軽症9人

住家被害：調査中 非住家被害：調査中

孤立集落：2地区3カ所（10人） 若山2人、大谷8人

避難所開設状況 9箇所 避難者数60人

通行止め箇所 9箇所

仮設住宅床上浸水 上戸町第2団地 17戸

断水 1,415戸（三崎町、若山町、折戸・大谷）

## 4. 避難所の状況

### 【避難者数】

大谷小中学校 9月26日：33人（登録者）

### 【避難所運営と生活状況】

避難所には福井県からの応援職員が2人おり、避難所運営の多くを補助していた。断水状態は続いているが、給水があり、戸外に設置されている仮設トイレの使用が、本日から使用可能になった。体育館の入口に設置されているWOTAで手洗いが可能である。体育館内トイレは凝固剤使用が継続されている。トイレ内の手洗いはポリタンクの設置により行われている。好天が続いており、玄関の泥、砂は減っていた。

体育館内は従来使用していた生活スペースに加え、床で生活している避難者もいる。冷房の使用はなかったが、館内に暑さは感じなかった。下着や衣類などの支援物資が共用スペースに置かれ、誰もが利用できるように配置され、避難者が自主的に整理整頓されていた。

能美市赤十字奉仕団の訪問があり、常温保存可能な牛乳や蒸したさつまいもなどの提供があった。また、在宅生活を送っている住民が水を受け取りに来られ、自宅までの道中に6軒の在宅者がいるとのことで、給水バッグの水2個と飲用水の2Lペットボトル1本を各家庭に届けてもらうことにした。

## 5. 支援活動の実際

### 【避難所避難者の健康管理】

かなりの人が、自宅の片付け等のために出かけており、不在であった。在室の避難者に声をかけ、2人は健康状態を確認し、5人に対して血圧測定を実施した。不眠を訴える人はいなかった。夜間に冷房が付いていたため寒かったと話す避難者もいた。血圧測定者のうち2人が収縮期血圧150mmHgを超えていた。自覚症状を確認したが、訴えはなかった。

### 【避難所の環境整備】

給水に伴い、屋外の仮設トイレを使用できるようにするため、トイレ掃除を行った。次亜塩素酸での消毒を併せて実施した。スリッパの履き替えも確実に実施していただけるように、トイレ用スリッパを明示した。屋内のトイレ掃除も実施し、排泄後のゴミがすぐにたまるため、適宜ゴミ捨てをしていくよう依頼した。

体育館入口は連日の掃除の効果で、かなり泥や砂が減っていた。砂埃の飛散防止のため、水を浸漬させた新聞紙片を蒔いたうえで掃き掃除を行い、ほぼ泥や砂はなくなった。住民が下足の履き替え場所に段ボールを敷設し、足を汚さずに屋内に入れる状態になった。

避難所内のゴミが多く置かれた状態だったが、ゴミ置き場の使用が可能となり、応援自治体職員と活動隊員とですべて搬出を完了した。

従来から使用している段ボールベッドの居住スペースの掃除、ブルーシートの交換を計画していたが、避難者の荷物整理等の協力が必要なため、新たに居住スペースを整える際にブルーシートを交換することにした。作業のために参集した避難者と共にブルーシート上を乾式シートでの掃除、湿式シートでの掃除、次亜塩素酸での拭き掃除の順で清掃した。

### 【新環境の整備に向けた意向調査】

避難者が増加したことに伴い、避難所内居住スペースの再配置が必要なため、在室者に対して意向調査を実施した。聞き取りは「段ボールベッド使用を希望するかどうか」「居住空間の仕切りは段ボールにするか、スクリーンタイプにするか」「今後の生活として仮設住宅の入居が決まっているか、または申請しているか」「現在の自宅の状況（戻れるかどうかを含む）」についてであった。

段ボールベッド使用の希望者がほとんどであったが、中には床での生活を希望する人もいた。パーティションについても大多数が段ボールタイプを希望していた。

もともと在宅生活だった避難者は、断水が解消すれば自宅に戻りたいと話す人もいれば、地震での被害は大きくなく、在宅生活が送れていたが、今回の大雨被害で自宅に土砂が流入し、2階からしか出入りできそうにないと話す人もおり、生活の立て直しについて再度考えなければならない状況になっている人もいた。

## 6. 支援活動を通しての所感と課題

屋内の環境整備はほぼ完了し、粉塵の飛散は広がらないと考えるが、避難者はマスク着用率が低いた

め、今後影響が出現しないか、健康観察を継続していく必要がある。また、清掃の継続も必要である。避難者は活動的に見えたが、連日の自宅の片付けや片付けが進まないことなどで身体的にも精神的にも疲労が蓄積してくると考えられるため、状況を注意深く見守っていく必要がある。

道路の寸断がほぼ解消したことで、住民の移動が可能になってくるため、持病がある人の受診も可能になってくるが、道路状況は決してよくないこと、もともとの公的バスの運航便数が少ないため、避難者の健康維持に必要な配慮点は多い。

## 7. 写真



戸外のトイレ掃除



掃除を完了したトイレ